

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	くれよん亀山教室		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 13日		2024年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2024年 12月 13日		2024年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	遊びを通して関わることで、お子様の好きなことや関心のあることを大切に、リラックスして過ごせる環境づくりを心がけている。	お子様の変化やサインを受け止められるように、意識して様子を見守る。職員間の情報の共有は密に行い、質の良い支援に努めている。	お子様の興味関心に合った関わりや支援内容をさらに探求し、個々の成長や表現を引き出せるような活動やレクリエーションを考えていく。
2	日頃の活動や外出などで信頼関係を深めることで、安心して自発的に行動ができ、自主性を向上させている。	お子様が日常の中で感じている困りごとや不安などについて、様子や会話の中で受け止めている。そのうえで、対応や解決方法について一緒に考え、模索している。	職員が常に専門性を高める意識を持ち、様々な情報を共有しながら支援にあたる。事例検討や内部研修を通じて職員間の連携も深めていく。
3	職員間でミーティングを行い、お子様の課題を理解して評価することで、それに基づいた遊びや運動を活動に取り入れ、効果的な発達支援を実施している。	遊びや運動を通じて常にお子様の様子を観察・評価し、「できるようになったこと、苦手なこと、困っていること」などを把握するようにしている。こうした日々の観察を、保護者と共有して成長過程を一緒に考えていく。	職員の療育の質をさらに高めていく必要がある。勉強会や事例検討会、外部研修などを活用し、スキルアップを心がけて、効果的な支援を提供していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者に対するフィードバックが十分に行えないことがある。	保護者との関わる時間の確保が難しいことがある。また、職員によっては保護者支援の重要性に対する認識が十分でない場合もある。	フィードバックの方法や内容について共通の基準を設定して質を高めていく。
2	療育の中で予定されたレクリエーションを中止にせざるを得ないことがあり、支援全体の流れやお子様たちへの影響が出ることがある。	それぞれの学校の下校時刻によって、十分な活動時間が確保できない時がある。	短い時間でも行えるレクリエーションを考案していく。またスケジュールの習慣やリズムが持てるように促していく。
3	送迎対象地域が限られている。	送迎車と送迎人員が限られており、複数の学校や地域への送迎が難しい。	送迎の順番の工夫や、保護者の理解を得て、範囲を広げていくようにする。